

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について (令和2年4月1日現在)

1. 教育学部	2
2. 大学院人文社会科学研究部(文学系)	3
3. 大学院人文社会科学研究部(法学系)	4
4. 大学院先端科学研究部	5
5. 大学院生命科学研究部(医学系)	7
6. 大学院生命科学研究部(薬学系)	8
7. 大学院生命科学研究部(保健学系)	9
8. 病院	10
9. 発生医学研究所・ヒトレトロウイルス学共同研究センター・ 生命資源研究・支援センター	12
10. パルスパワー科学研究所	15
11. くまもと水循環・減災研究教育センター	16
12. 先進マグネシウム国際研究センター	18
13. 大学教育統括管理運営機構附属グローバル教育カレッジ	19
14. 総合情報統括センター	20
15. 熊本創生推進機構	21

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(教育学部)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
教育学部の専門科目である「初等家庭科教育」「特別支援教育概論」「障害児教育原理」「人権教育論」などでは、男女共同参画や障害のある人を含めたダイバーシティに関連した内容を扱っている。また、教養教育科目である「現代教育について考える a」, 「女性のライフコースとキャリア」などを教育学部教員が担当し、ジェンダーやダイバーシティに関連した授業を行っている。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
教員の研究では「地域の男女共同参画」や「インドにおける障害者とジェンダー」をテーマにした研究が行われ、研究成果は熊本大学教育学部紀要に掲載された。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
熊本大学教育学部人権教育委員会が企画した人権教育講演会に、仕事をして活躍している障害のある女性 2 名を招いて、ジェンダーのみならず障害等のダイバーシティの観点から当事者の話を聴いた。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
令和元年度の育児休業取得者は 6 名（附属幼稚園教諭 1 名，附属小学校教諭 1 名，附属特別支援学校教諭 4 名）である。 附属特別支援学校の八幡彩子校長（教育学部教授）は、熊本県の“よかボス”宣言に登録し、教職員の仕事や結婚・子育てや介護などを応援することを、学内外に宣言している。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(大学院人文社会科学研究所(文学系))

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
前年度開講の授業「ジェンダー入門」を継続して開講し、男女共同参画の必要性を学生に周知させることを行っている。また、ジェンダー差別に該当する日本の広告などを素材とした授業「近代イギリスにおけるジェンダーとマテリアル・カルチャー」〔世界システム史購読D〕を文学部2年生を対象に開講している。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
それぞれの部署で引き続き努力している。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
授業「ジェンダー入門」を継続して開講し、男女共同参画に積極的な人材を育てることを目指す。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(大学院人文社会科学部(法学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
職業選択に関するキャリア科目開講を維持しています。学生が種々の目的で使用できる「リフレッシュルーム」「院生共同研究室」を維持しています。 文・法学部と武夫原会主催による学生向け講演「熊本大学における男女共同参画に関する取り組み」(講演者:宮瀬美津子氏)を開催しました。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
教員公募に出産・育児・介護に専念した期間の付記、男女共同参画を推進していることの記載を維持しています。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
特に具体的取り組みはございません。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
学内託児ルーム利用について資料を共同研究室等に1ヶ月ほど展示しました。 熊本大学男女共同参画推進フォーラム(研修会)の周知および参加しました。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
特に具体的取り組みはございません。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(先端科学研究部)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<p>平成21年度から「サイエンス・プロジェクト for 九州ガールズ」として開始した女子中高生者の理系進路選択支援活動は、平成29年度より「はばたけ! 熊本サイエンスガールズ」として実施している。女子中高生の理系進路選択支援事業に関して、理学系教職員が企画運営に関係するとともに、大学院先端科学研究部男女共同参画推進委員会からの依頼に応じて理学部、工学部及び自然科学教育部の女子大学生・大学院生が各種企画に協力している。オープンキャンパスに合わせて開かれる進路相談会は、高校生の興味に応じて現役学生と個別に相談する機会として多くの参加者を得ている。これら行事の参加者からは、極めて高い評価を得ており、理系学部に進学する女子高校生及び大学院に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員・研究者増加につなげるという意味で、優れた取組と考えている。</p> <p>また、大学院先端科学研究部男女共同参画推進委員会主催で、女性教員と大学院生、学部学生との懇談会である Women in Science を継続して開催している。</p>
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<p>平成22年度に科学技術振興調整費(平成23年度より科学技術戦略推進費) 女性研究者養成システム改革加速「バッファリングによる女性研究者養成の加速」に採択され活動を続け、平成26年度末までに10名の新規女性教員を採用してきた。採用した女性研究者には研究費、研究スペース等の面での支援を行い、メンター教員の支援のもと、自立した環境での活発な研究を支援した。事業終了後の平成27年度以降も、着任2年目および3年目は年間100万円の研究費を支給してきた。加えて、平成28年度以降も、新規採用教員のみならず全女性教員を対象に、スキルアップ経費として、論文投稿・校閲費や会議参加費などの支援を行っている。また、新規養成女性研究者には3名のメンター教員をつけて支援を行う体制を構築し、メンター会議での情報交換を行った。</p>
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<p>平成29年度から令和3年度までの5か年の計画として策定された「第2期熊本大学男女共同参画推進基本計画」に掲げる事項の推進を図るために、平成22年に採択された科学振興調整費事業「バッファリングによる女性研究者養成の加速」事業では、事業終了後の計画を含めた形で、具体的な目的・計画をホームページで公開している。</p>

目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。

大学院先端科学研究部での状況であるが、平成22年度から平成26年度までに「バッファリングによる女性研究者養成の加速」プログラムにおける年度計画に基づき、職位を問わない女性限定の公募を実施し、平成26年度末までに10名の女性教員を新規に採用した。この間に新規に雇用した女性教員のうち3名が、着任後に出産し、現在も育児をしながら教育研究活動を継続している。

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念（あるいは従事）した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。（詳細は、ホームページを御覧ください。<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/>) 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(生命科学研究部(医学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・医学科での特別臨床実習においてグループ分けを行う際、特別な偏りがないよう配慮している。・全学年、男女とも個人毎にロッカーを割り当てており、女子更衣室についても確保している。・育児中の学生に対し、要望があれば実習時に配慮し柔軟に対応している。・勉学と子育ての両立の心構えやアドバイスを女性先輩医師から直接聞くことが出来る環境を整えている。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・医学教育部において、柴三郎プログラムに女性柴三郎コースを設定し、保育園への優先的入園、病児保育などの子育て支援や、出産・育児休学中もeラーニングで勉学の継続、メンターによる研究指導などを行う支援制度を設けている。・女性教員、女子学生によるランチ会が2回開催されており、意見交換の場となっている。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
特になし
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
特になし
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">・教員公募を行う際には、必ず、「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページをご覧ください。http://gender.kumamoto-u.ac.jp/) また、選考にあたっては、「男女共同参画社会基本法の精神に則り、適性に行います。」を記載している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(生命科学研究部 (薬学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
入学年度により多少の違いはあるが、薬学部の男女比は約 1:1 で、男女とも就職率は100%であるため、現状においてもキャリア形成の意識は十分高いと言える(基本方針1)。創薬・生命薬科学科(4年制)の学生は男女とも100%が大学院博士前期課程に進学しているため、教育の機会均等は既に達成されていると言える(基本方針2)。しかし、今年度に博士学位を取得する学生26名のうち女性は8名であるため、修士号までは差が認められないが博士号取得者数には男女の違いが認められる。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
薬学部では3年生の5月から研究室配属になるが、研究室ごとに男女の定員はないので、既に男女平等な教育・研究環境であるといえる(基本方針1, 2, 3)。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
「かかりつけ薬剤師」として地域に根ざした薬剤師を目指す学生も増えている。この傾向は今後も増加すると思われる(基本方針1)。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
今年は該当者がいなかったが、積極的に女性研究者の講演会を開催する機会を設けている(基本方針4)。教員公募の際には、女性を積極的に雇用する旨を公募要領に記載している(基本方針1)。セクシャル・ハラスメント相談員のリストを掲示板に示し、各種ハラスメントに関する相談に対応しやすいようにしている(基本方針5)。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(生命科学研究部(保健学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
eラーニングを活用し、moodleに保健学系男女共同参画のコースを設置した。2019年度においては、「日頃の信頼関係が大切」との動画を配信し、受講者数は68名と保健学科教職員の大半が動画での受講している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(病 院)

<p>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</p>
<p>・実績なし</p>
<p>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</p>
<p>・実績なし</p>
<p>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</p>
<p>・実績なし</p>
<p>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</p>
<p>○ワーク・ライフ・バランスの観点に立つ環境の整備 病児保育室運営委員会による</p> <p>① 病児保育室の利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病児保育開始時間の30分繰り上げ、保育料の値下げ(1日3,000円→2,000円、半日2,000円→1,500円) <p>○ジェンダーの視点による学内の調査・分析、統計及び情報の提供 病院男女共同参画推進委員会による</p> <p>① 男女共同参画コーディネーターの会の開催(令和元年11月7日、11月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本院の女性医師支援の取組ほか <p>② 育児介護支援情報会の開催(令和元年11月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本市ファミリーサポートセンターによる育児支援制度の説明及び依頼会員登録講習会

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

- 病院の女性職員（有期雇用職員等を含む。）比率等（令和2年3月1日現在）
 - 職員数 約2,200人（うち女性 約1,470人 女性比率 約67.0%）
 - （教員・医師 約640人（うち女性 約200人 女性比率 約31.0%））
 - （コメディカル(看護師等)約1,210人(うち女性 約1,030人 女性比率 約85%)）
- 病院男女共同参画推進委員会と熊本県地域医療支援機構の共同によるクローバーセミナーの開催(令和2年2月7日)
 - ・医療人サポート及び育成
 - ・労働法制について、ほか
- 教員の公募において
本院の教員公募において、本学は男女共同参画を推進しており、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法に則り適正に行うことを記載している。
- 他大学での男性医療人の育児参加や働き方等についての検討を参考に
本院においても、育児中のスタッフを抱える部署の職員のケア等について情報共有や意見交換等を行うための男性医療人の会といったものが作れないか検討するため、男女共同参画委員会委員が院内でアンケートを実施した。
- 熊本大学病院連携病院長懇談会総会におけるプレゼンテーション
本院と熊本県内外の医療機関とが相互の交流と親睦を深め、地域医療の充実を図ること等を目的として設置した「熊本大学病院連携病院長懇談会」の令和元年度総会（令和元年11月15日開催）において、本院病院長が本院の運営状況についてのプレゼンテーションを行った中で、本院の女性医師・職員の支援への取組み（院内保育所の設置と運営、医師のキャリアサポート）について紹介した。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名（発生医学研究所）

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、独自の研究支援事業を行っており、『育児・介護期間中の研究支援』事業においては対象者を大学院生にまで拡大し、育児・介護と就学を両立できる環境の整備に取り組んでいる。平成31・令和元年度は公募を行ったが、大学院生の応募者がいなかった。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、2008年7月29日に男女共同参画推進に係る事業実施に関する申し合わせを定めて、工夫及び改善を重ねながら、「男女共同参画推進事業」を継続して行っている。平成31・令和元年度は、前期公募(2019年9月27日(金)締切)及び後期公募(2019年12月27日(金)締切)の計2回の公募を実施し、採択者に対して「育児・介護期間中の研究支援」に関する助成を行った。発生医学研究所HPにおいて、上記の「男女共同参画推進事業」の公募・採択情報のほか、女性教職員の割合（統計データ）及び授乳室等設備の最新情報を掲載している(http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/danjo/)。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、毎年八代中学からの研究所見学を受け入れており、今年度も2019年6月14日(金)に実施した。当日は本研究所教員による講義等を行った。熊本大学医学部主催の学園祭『本九祭』において、発生医学研究所では、展示発表や研究室ツアーを行った(2019年9月28日(土))。その際に、男性教員も女性教員も積極的に参加し、来場者の方への研究紹介や進路相談等にも対応した。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
発生医学研究所が中心となり、年に1～2回のペースで近場の人たちで緩やかな繋がりを維持し、問題や悩み事を共有することを目的に集まっている。本荘地区の研究に関わる教職員及び学生が参加し、悩み事の相談や情報交換を行っている。今年度もランチ会(2019年6月6日(木))を実施した。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">男女共に休憩できるスペースを確保するため、発生医学研究所内に新たに『休憩室』の設置を行った。ベッド2台を常設しており、一時的な体調不良時に使用できる。また、以前より設置していた『授乳室』に新たにロッカー等も配備し、更衣室としても利用できるように変更した。2019年5月23日(木)に行われた「国立大学附置研究所・センター会議」において、本研究所の男女共同参画に対する取組みが取り上げられた。授乳室や休憩室の設置、リトリートでの保育支援及び研究費支援等、具体的な活動について、本研究所から、「国立大学附置研究所・センター会議」出席者へ紹介を行った。2019年8月7日(水)～8日(木)に開催した、発生研サマーリトリートセミナー(発生研・医学部・薬学部から110名参加)において、認可保育園に常勤の保育士資格者2名による託児を実施した(利用実績計5名: 0～2歳児2名、3～7歳児3名)。2019年12月23日(月)、「セクシュアル・ハラスメント防止のための特別講演会」を開催した(参加者約100名)。弁護士の藤木美才先生をお迎えし実際の事例を交えて講演していただいた。なお、黒髪キャンパスの理学部にも講演の模様を中継した。COVID-19感染拡大防止の観点から小学校等が一斉休校になったため、2020年3月2日(月)より授乳室(現在、授乳室としての利用者なし)を臨時キッズルームとして開放した。

- ・ 全学男女共同参画の経費支援により、キッズルーム用の備品をサポートして頂いたため、キッズルームの開設に向けて準備を進めている。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組みについて

部局名(生命資源研究・支援センター)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・卒業生が大学に訪問し、男女問わずキャリアパスについて助言を受ける環境を整備している。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・個々の状況に合わせた研究計画の立案と助言をおこなっている。また、関係学会及び研究会などへの参加を促進している。・育児と研究が両立できる研究環境整備に取り組んでいる。・研究の効率的な推進や研究環境を整備するために、事務補佐員や技術補佐員として、積極的に女性の採用を行っている。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">・次世代リーダー育成プログラムである HIGO プログラムへの参加を積極的に進めている(令和1年度:1名参加)。・National University of Singapore からの大学院生(女性1名)を短期的に受け入れ、受け入れ研究室の男性教員と女性研究員とともに研究を行なった。・放射線の基礎知識の啓発活動や原子力事故対応の被ばく医療研修などへの講師派遣を促進している。・八代中学校の生徒に研究室を公開し、科学研究の一端を紹介した。また、本センターが主催している体験講座「遺伝子と仲良くなろう」では、男女共に講師を務めるようにし、参加者には熊本大学男女共同参画関連のパンフレットやグッズを配布し熊本大学の取り組みを紹介している。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">・教育体制や人材育成に積極的に取り組み、男女の区別なく活躍できる環境の整備に努めている。・放射線安全管理に関する国家資格などの取得ができるように職場での教育支援体制を促進している。・個々の子育て環境に合わせて、実際の時間的な研究計画を調整している。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">・教員公募の際には、男女共同参画を推進していることを示すため、「熊本大学は、男女共同参画を推進している旨、明記している。・妊婦の方などが臥床できる休憩室(動物資源開発研究施設新館 600 室)を設置しており、他に、休憩スペースとして、ソファ(遺伝子実験施設 6F 608 室)・リフレッシュルーム(共用棟 1F)の休憩用ベンチを利用可能としている。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(パルスパワー科学研究所)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
研究所主催の国際シンポジウムにおいて、世界的に著名な女性研究者や優秀な業績を有する本学女性教員をお招きし世界トップレベルの研究内容をご講演いただくなど、研究・教育環境においてジェンダーレスであることを積極的に啓発している。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
当研究所が実施している研究プロジェクト「パルスパワー先端国際共同研究推進プロジェクト」および「新たな共同利用・共同研究体制の充実」において継続して女性6名(特別研究員1名、事務補佐員3名、技術補佐員2名)を採用するなど、積極的に女性の採用を行っている。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
国際的に活躍できる研究者を育成するために、男女問わずに研究者や学生の海外渡航を支援し、国際会議参加や国際共同研究実施のための派遣を推進している。またこの活動は、国際社会では男女が分け隔て無く活躍し、社会貢献していることを見聞してもらえらる効果をもたらしている。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
熊本大学が実施している「育児・介護に関わる研究支援」事業や「病児保育支援事業」への申請を積極的にサポートし、子育て・介護世帯研究者の研究継続に配慮している。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
特になし。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(くまもと水循環・減災研究教育センター)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・くまもと水循環・減災研究教育センターの外部施設である合津マリンステーションや益城ラボでは、そこを利用する学内外の学生に対して、浴室、トイレ、寝室等施設面において男女による差別がないよう配慮され、また長靴、防護服などを含めた実習用設備品においても男女による差別がないように配慮され、利用目的が適正かつ安全に遂行されている。・学生実習や市民講座・観察会は、野外や十分な設備のない場所で行われることが多いが、事前に更衣室やトイレに配慮するなど、男女共同参画に向けた活動が適切に行われている。・所属教員の指導する女子学部生は4人、女性大学院生は12名と多い。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・教員公募にあたっては、募集要項に男女共同参画を推進していることを明記し、研究活動への機会均等に配慮している。研究補助員・事務員の募集についても、可能な限り、女性を優先するように配慮している。・任期付ではあるが外国籍女性教授1名が所属していた(令和2年1月末退職)。女性かつ外国籍ということもあり、センターの予算で秘書1名(女性)を雇用し、便宜を図っていた。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">・市民講座等を通して、男女がともに活躍できる地域社会の実現を目指している。・2019年9月18～21日に本センターが開催した国際会議には、国内外から多くの女性研究者・女子学生が参加した。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">・センターでは、研究補助員、事務員として、多くの女性(計9人)が雇用されているが、採用においては育児・介護等が不利にならないように配慮し、また、雇用後の勤務についても育児・介護が可能な勤務態勢を取っている。

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

・合津マリンステーションでは、理系進学を推進するためのプロジェクトの一環として、熊本第二高校の臨海実習の他、県下生物部・科学部の研修、女子中高生の理系進路選択支援プログラムにイベントなどが頻繁に行われており、多くの女子生徒が参加している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(先進マグネシウム国際研究センター)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
研究組織のため、該当なし。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
平成29年10月から女性の外国人博士研究員を2年間雇用した。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
男女共同参画推進に関する啓発活動については、学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に出席するよう努力している。今年度は、男女共同参画推進に関する学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に参加して高い意識を常にもつよう努力し、全学的な男女共同参画推進フォーラムへは、セミナーへの参加をメールや口頭で促している。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
本センター独自の取組はないが、全学で託児ルームの開設など、女性の活躍を推進する環境整備がなされている。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念(あるいは従事)した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページを御覧ください。 http://gender.kumamoto-u.ac.jp/) 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(大学教育統括管理運営機構附属グローバル教育カレッジ)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
附属グローバル教育カレッジでの授業は、常に社会の多様性に焦点を当て、文化・国籍の他に、世代やジェンダー等の共存・共同参画を教えている。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
●2020年1月20に「Education Interactive Seminar Series～歌からたどる「からゆきさん」の物語」というタイトルで公開講演会を開催した。講師に宍倉 正也氏を招へいし、「からゆきさん」の「歌」を糸口に、新しい「からゆきさん」の肖像、ライフストーリー、歴史解釈を提示するという内容の講演の後、チャン チェオン ジェン氏を交えてディスカッションを行った。熊本大学の学生、教職員及び地域住民等40名が参加した。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
熊本大学2019年度サマープログラム、2020年スプリングプログラム委託業務の企画競争において、男女共同参画社会基本法に則り、選考を適正に行っている。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(総合情報統括センター)

<p>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</p>
<p>当部局は教育担当部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標1の活動を側面から支援している。</p>
<p>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</p>
<p>研究を担う教員は、当部局では男性のみであり、上記に係る取り組みは実施していない。</p>
<p>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</p>
<p>当部局は、本学の人材育成を担う部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標3の活動を側面から支援している。</p>
<p>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</p>
<p>該当なし。</p>
<p>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</p>
<p>当部局では、男女共同参画推進委員会が主催する各種講演会やセミナー等について、具体的な数値目標を定めて、積極的に参加する取り組みを実施している。また、働き方改革、男女共同参画推進の視点から、「テレワーク」実施の可能性について、技術的側面より検討を始めている。</p>

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(熊本創生推進機構)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
所属の学生がいないため、該当なし。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
研究者が育児をしながら研究等に専念できるよう、男女共同参画推進室と本機構が協力してルポゼ2階に託児ルームの設置に取り組み、令和元年度からの運用が可能となった。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
本学と大阪市立総合学習センターの連携事業である、うめだカレッジ講座『不妊・医療・親子ー新しい家族のかたちを考える』を開催し、5～6組に1組のカップルが不妊であるといわれる日本における生殖補助医療の現状とこれに関する法的課題について考える機会を設け、地域(市民)社会への貢献活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大阪府主催事業の中止並びに延期を踏まえ中止することとなった。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
育児中の研究コーディネーター(URA)の勤務にあたって、育児時間及び育児短時間を取得するよう勧め、また、業務負荷がかからないようワークシェアリングを行い、長時間労働にならないよう配慮した。令和元年度は2名の職員が育児時間を取得。 なお、有期雇用職員については、規則上、育児時間を子供が3歳に達する日までしか取得できないため、職員からの要望を踏まえ、もう少し子供が大きくなるまで取得可能となるよう規則改正に関して学長宛に要望を行った。 また、熊本県が推進している「よかボス」の取組について、学長に宣言いただくよう提案し、職場環境改善につなげた。

その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

- ・本機構安部准教授が市民団体「男女共同参画と災害・復興ネットワーク」のアドバイザー（ボランティア）に就任し、活動中。
- ・本機構梅澤彩准教授が本学（全学）の男女共同参画コーディネーターとして活動中。